

表現文化ゼミナールⅢ～Ⅵ・卒業研究

日本文学、日本語学、表現創造の3分野・9つのゼミナールから自身の関心に合ったゼミを選択し、本学科での学びの集大成として卒業研究・卒業制作の完成を目指します。

【卒論テーマ例】

『源氏物語』における煙を用いた表現の研究、「太宰治『駆込み訴へ』論—反転する「私」—」、「若者語にみられる「っす」の意味・用法」、「白が崩れる」(小説)、「ある虫の話」(身体表現)



楽しく創作して先生に褒めてもらえるのは表現文化学科だけです！
(2022年度卒業生)
学生と教員との距離が近く、同じ熱量で議論できることがうれしいです。
(在学生)

3年次以上配当科目です。本講義群の学びを通して、選択ゼミに限らない広い専門性の獲得を目指します。

【科目例】

古典文学講義3：岡山藩に仕えた湯浅常山が記した武将逸話集『常山紀談』を読みます。江戸時代における出版制度や学問体系を踏まえ、『常山紀談』の目指した表現や主張を正しく読み解きます。

近現代文学講義1：占領期の日本で発表された短篇小说を取り上げます。小説の読解を通じ、「戦後」という問題系について考察します。

1年次配当科目です。各分野の基本的な知識の習得を通して、人文科学的な思考態度を養います。

【科目例】

日本文学入門2：「文学」の講義は、「国語」の授業とどう違うのでしょうか。近現代文学研究の基本的な知識を学び、テキストを「分析的に読む」姿勢を身につけます。

日本語表現入門1：日常的に使っている日本語をどのように「学問」するのか、日本語を“分解”するための基礎的な知識と方法を学びます。

表現創造基礎4：自分(のからだ)だけれども、自分(のからだ)をコントロールすることはなかなか難しい。動いて関わって肌でわかりたい。自分や他者や世界のこと。

日本文学や日本語学だけでなく、小説の創作や身体表現など、関心のある分野を広く学ぶことができるのが魅力です。(在学生)



就実大学人文科学部

表現文化学科 って どんな学科？

しっかりと設計された段階的なカリキュラム、そしてゆるやかなコース制のもと、多様な観点から「表現」の可能性を学ぶことができます。本学科で習得できる幅広い教養と確かな洞察力は、みなさんの「生きる力」の支えとなるはずです。

アドバンストゼミナール

「実践教育プログラム」として2018年度から始めました。「活かす・動かす・作り出す」をテーマに、教室を飛び出し実践的な経験を通じて学びを深めていきます。

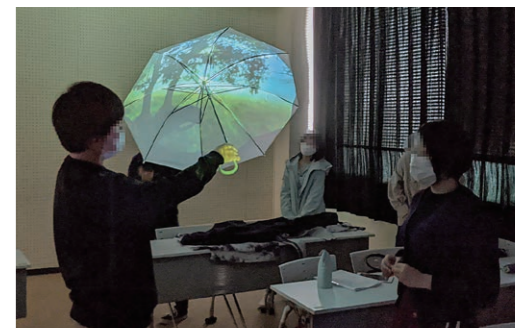
【科目例】

アドバンストゼミナールⅠ (メディア表現)：

映像や音声をプログラミングできるソフトを使って、プロジェクションマッピング等の映像作品を制作するゼミです。

アドバンストゼミナールⅡ (鑑賞教育)：

美術作品を鑑賞してディスカッションを行うことで、作品そのものに加えて、自分自身の考え方を知ることができるゼミです。



2年次以上配当科目です。

3年次以降の専門教育に向けた土台を形成します。

【科目例】

古典文学研究1：『伊勢物語』や『源氏物語』の絵画を見ながら、各時代で作品がどのように解釈されてきたかを学びます。

古典文学研究2：書物のかたちは、表現を制限し、同時に表現の可能性を開きます。絵巻物の読解を通して、その問題を考えてみましょう。

日本語史：日本語は1000年以上の歴史を遡ることができます。日本語が長い時間をかけてどのように変化し、今私たちが使っている言葉の形になったのか、その歴史を紐解きます。

ゼミ選択の準備として、2年次では前・後期で異なる分野のゼミを履修する仮ゼミ制度を設けています。自身の学びたいものが何なのか、時間をかけて考えることができます。

【科目例】

表現文化ゼミナールⅠ (現代語)：

市販のカードゲームを言葉の教育に応用する方法について検討します。実際にゲームで遊びながら、語彙や文法、話し方の訓練への活用の仕方を議論していきます。

表現文化ゼミナールⅡ (言語表現)：

私たちの先輩とも言える明治・大正・昭和期の文学者たちの表現を調査し、その表現を深く分析していきます。優れた言葉の表現を知ることが、言語の創作を始める大切な基礎になります。

「研究」・「史」群

表現文化ゼミナールⅠ・Ⅱ



数理・データサイエンス 副専攻制度始動！

2024年度入学生からは、自身の専門領域(主専攻)に加えて、「数理・データサイエンス」を副専攻として履修することが可能です。データを分析して確かな根拠をもとに意思決定するデータサイエンス、人工知能の基礎知識やプログラミングを体系的に学ぶことで、「文理融合」の学際的な知見を得ることができます。



コースにこだわらず幅広く学ぶことができるので、学びながら自分の興味関心のある分野を見つけることができます。(在学生)



見る・聞く・触れる 実感教育プログラム

本学科は多彩な学科行事を設けており、授業以外でも学びを深める様々な場が用意されています。



研修旅行 (新入生対象)

奈良や京都を訪れ、寺社の文化遺産や博物館を見学して「本物」に触れます。写真は長谷寺、室生寺を拝観したときのものです。



学外研修

少人数クラスで古典芸能や映画等を鑑賞したり、名所旧跡を訪れたりします。写真は近世文学ゼミで京都・相国寺の承天閣美術館を訪れたときのものです。



表現文化のつどい

この企画では、身体性・多様性・創造性の理解を促し、見る力・伝える力の醸成を図っています。講師陣は国内外で活躍する多彩な分野の芸術家の皆さん。ワークショップでは地域の方々との活発な交流を交えつつ、身体表現を学んでいます。



文学散歩・博物館散歩

郷土の風土や文化を知るための日帰り小旅行です。写真は徳島市立徳島城博物館を見学したときのものです。参加者は学芸員の方の説明を熱心に聞きながら、徳島藩主蜂須賀家を彩った美術工芸品を鑑賞しました。



学術講演会 (表現文化学会主催)

これまで、清水義範氏 (作家)、今井勉氏 (琵琶奏者)、片山伸吾氏 (能楽師)、伊藤比呂美氏 (詩人)、吉増剛造氏 (詩人) などをお招きしました。写真は2021年度、古典文学研究者の飯倉氏による講演の様子。



「人と出会う」企画

実感教育プログラムの一環として、「人と出会う」企画を開催しています。学術研究や出版業界の第一線で活躍する人と出会うことで、学生にとっては大きな刺激となっています。写真は、雑誌編集者として活動されている宇治田健志氏をお招きしたときのものです。



実地調査 (授業科目)

過去の文化表徴を実地に見聞することで、多角的に文化現象を分析する力を養う授業です。2019年度は、近世大名文化の足跡をたどるために、岡山藩主池田家にゆかりの深い、名古屋・岡崎・豊橋方面を巡りました。

『表現文化だより』 学生編集員制度



学科での学びを実践的に活かす学内インターンとして、表現文化学会の機関誌『表現文化だより』の学生編集員制度があります。企画の立案から取材、記事の執筆、そして印刷会社との交渉まで、雑誌編集作業のほぼ全てを学生だけで担当しています。マスコミや出版業界への就職を志望する方におすすめです。



企画から冊子になっていくところまで、全部自分たちでできることが活動の魅力です。大変ではありますが、その分完成したものを手に取ったときの感動も大きく、やりがいを感じられます。
(2021年度卒業生)



研修旅行で、伏見稲荷の千本鳥居を登り切ったことは良い思い出です。(2022年度卒業生)
博物館で専門家の解説を聞きながら実物を鑑賞することが出来たのは、非常に有意義な時間でした。全国の特別展を自分で調べ、積極的に足を運ぶようになったのは、間違いなくこの経験のおかげです。(2022年度卒業生)



取得可能な資格

本学科では、**高等学校・中等学校教諭一種免許 (国語)** が取得できます。教員志望者向けの授業として「作品読解ゼミナール」が開講されているほか、年一回開催される「教職課程の会」など、学科としての支援体制も充実しています。その他にも、**博物館学芸員資格**、**図書館司書資格**、**学校図書館司書教諭申請資格**などが取得可能です。特に図書館司書課程は毎年履修者が多く、切磋琢磨しながら頑張っています。



多様な進路選択

卒業生の進路は、公務員 (中学校教諭、県庁・市役所職員、国家公務員)、一般企業 (テレビ局アナウンサー、銀行員、システムエンジニア)、団体職員 (大学、農協、医療機関、文化振興財団) 等、業界・職種ともに多岐にわたります。4年間の学びを活かし、広い視野で自身に合った進路を選択できることも本学科の魅力です。また、就業先は中四国が約8割を占めており、先輩方の多くは地域を支える力となって活躍しています。

